



合併浄化槽の普及には——町は市町村設置型を提示

永郷の焼却場跡地に汚泥再生処理センターが建設されます。この施設は合併処理浄化槽や単純浸透槽から出る汚泥を微生物の働きで浄化処理し、施設から出る処理水を無害化した上で河川に放流するものです。また、国の補助の条件である資源化施設として、汚泥と生ゴミをあわせて堆肥にする装置がつくられます。建設費は約16億円です。

町の現状 現在八丈島では、単純浸透槽で処理している世帯の割合が大部分を占め、生活排水の管が側溝につながり、そのまま海まで流されている状況もみられます。島の自然環境に及ぼす影響を考えると、早急に合併浄化槽の普及を進める必要があります。新築の場合は設置が義務づけられていますが、現在単純浸透槽の世帯が設置しようとする、設置費用が約100万円と高額であるため、4割の補助があつたとしても普及は困難です。こうした状況をのりこえても普及を進めるべきだと訴える私の一般質問に対し、町は市町村設置型で普及をはかつていくという方針を打ち出しました。

市町村設置型って何？ 浄化槽の補助制度には ①個人設置型・・・個人負担で設置し、市町村が補助(約40万円)する制度と ②市町村設置型・・・市町村が各世帯に設置しその後の維持費も市町村が負担する制度があります。市町村設置型は初期費用の1割、約10万円を負担するだけで済みますので、普及は進むと考えられます。

人口密度の低い八丈では、市町村設置型にすることによって、早く、安く効率的に整備することができるでしょう。しかし、個人の負担は処理費用だけになり、検査や清掃などの維持管理費は町が負担することになるので、これが将来の町の財政を圧迫することになることは必至です。

不公平感をどうする？ 浄化槽を設置していない世帯(単純浸透槽)では汲み取り料金がほとんど無料で、設置している世帯が検査や清掃に年間約3~4万円もかかるというのは不公平だという指摘があります。一方、環境への影響を考えれば設置は必要だが費用負担がきびしい、という声もあります。どちらも正直な住民の声です。したがって、今から町が、住民に対して浄化槽の設置の重要性と財政負担の実態を丁寧に説明していくことが重要だと私は思います。

他の町村では 各町村の担当者に電話で問い合わせたところ、伊豆・小笠原諸島の町村における生活排水の処理方法は島の大きさや人口などにより異なり、それぞれ工夫しています。

自治体	汚水処理の方法	設置数	世帯数	汚泥再生処理施設
青ヶ島村	市町村設置型	130	140	○ 小規模処理施設
三宅村	市町村設置型	382	1717	○ (建設中) H21、22
大島町	個人設置型	729	4800	なし 施設建設計画予定あり
新島本村	下水道	327	672	下水処理施設 H13より *
御蔵島	個人設置型	47	170	なし **
八丈町	個人設置型	685	4200	○ (建設着手) H22、23
小笠原村	下水道(施設の老朽化が課題) & 合併浄化槽			

前ページ
より続く

* 平成13年より供用開始。集落が集中しているため下水道を選択したが、一部合併浄化槽。式根島などまだ整備されていない地区もある。下水道料金は上水道の1.6倍かかっている。
** 昭和50年に単独浄化槽設置の貸付制度を実施し、ほとんどの世帯に普及させた。現在合併浄化槽47基、単独浄化槽79基、汲み取り9戸。コンパクトな処理施設建設を検討中

介護施設を視察

全国に約3400ある有料老人ホーム。地域密着型の介護の重要性を感じ、様々な介護施設の実態を見たいと思い、昨秋かつて八丈に住んでいた方が勤務する大田区の有料老人ホーム「悠生苑」をたずねました。

施設は街なかであり、築2年で明るく衛生的で、個室はホテルのようでした。有料老人ホームは入所時の一時金が高額といわれていますが、最近は家を売らずに済むよう一時金を抑えた施設も多いと聞きます。「悠生苑」も同様の考え方で、月々の利用料は平均的(18~19万円)ですが、入所一時金が安いのが売り。入所者のうち地元の方が多いのも下町ならではの、お互いが顔見知りでの和やかな雰囲気でした。食事は、民間の会社が厨房に入り3食を作っています。ご一緒した昼食は、量も品数もそして味も十分満足できるものでした。

認知症対応型施設のため、火災の心配を考慮し部屋で煮炊きや線香を焚くことは禁止。また、掃除・洗濯・食事づくりなどこれまで自分でしていたことを施設では職員がすることになり、生き甲斐をなくして認知症の程度が上がってしまうこともあるそうです。できるだけ「ギリギリまで自宅で過ごす」のがいいと施設長。施設の役割の重要性を再認識しつつも、自宅で過ごす大切さを実感しました。



議会報告会

1月28日(木)夜、大賀郷公民館で議会報告会を開きました。まず、平成20年度の一般会計決算について、財政の状況やおもな事業について報告し、一般質問の内容や議会での私の質疑や日頃の関心事について訴えました。参加者との意見交換では、次のような議論がされました。

ゴミ問題・・・分別が徹底されていないことが問題で、短期滞在の住民や集合住宅でマナーが悪く、パトロールすべきとの意見。有料化については賛否両論。

ジェネリック薬品・・・積極的にすすめるべきとの声。保険証の更新時などにジェネリックのカードが入っているが、問診時にジェネリックと先発品を選択できるようなサービスをしてほしいとの意見が多かった。

財政への影響・・・政権が交代して、町の財政に影響がでないか不安。同時に事業仕分けなどで従来の事業内容をチェックする必要ありとの意見。

黄八丈・・・もっと観光客にアピールできないものか。着て写真を撮るサービスなどを広めてほしい。

少人数ながら意見のキャッチボールができた報告会になったと思います。



2009年12月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. 町の現状に即した高齢者介護のありかたについて

養和会の養護老人ホームの老朽化、施設入所希望者の増加、在宅介護の抱える問題など今町が早急に解決しなければならない課題は山積している。私は、小さな自治体にふさわしい地域密着型の在宅サービスこそが、今町が力を注ぐべき介護のありかただと考える。高齢者介護の施策をすすめるにあたって、①小規模多機能型居宅介護、デイホーム、グループホーム、宅老所など、地域密着型の多様な在宅サービスが展開できるよう、町が支援する考えはあるか。②老人ホームの建て替えについて、養和会と話し合いは進んでいるか。

健康課長 ①夜間対応型訪問介護については町民のニーズを調査しながら養和会に働きかける。認知症対応型通所介護（デイホーム）については現在養和会などで行っていて、H24年に開設予定の事業者もある。小規模多機能については基準が高く参入業者はでていない。都の補助制度もあるが、町の支援については検討させていただきたい。②養和会と話し合いは定期的に行っていて、養和会の今後の事業展開について構想を示してほしいとお願いしている。

幸子 ①地域密着型のサービスの意義や補助制度について、町から発信し島の中から事業者が出てくるよう支援すべき ②建て替えについての補助の仕組み、町の介護方針を提示して、町が積極的に指導すべきだと思うが。

健康課長 補助制度についてさらに研究し町にあった施設を支援していく。



2. 合併処理浄化槽の普及をどのように進めていくか

汚泥再生処理センターの建設が始まろうとしている今、町が次になすべきことは、合併浄化槽の設置を普及させること。設置している世帯としていない世帯との負担の格差や島の自然環境に及ぼす影響を考えると、早急に普及を進める必要がある。①町はどのようにして普及をはかっていく考えか。②合併浄化槽処理費用についても公平性が保たれた料金設定が必要だと思うが、町の見解を尋ねる。

企画財政主幹 ①合併浄化槽の設置を促進するために、八丈町が設置主体となって合併処理浄化槽を設置するあらたな事業「市町村設置型」を検討すべきと考えている。②公平性を保つためにも、個人負担を軽減できる「市町村設置型」の設置を普及させていく。そのための周知活動も重要と考えている。

幸子 住民への周知はどのように進めていくか。センターの維持費が膨大になると聞くと、住民が負担する処理料金でセンターの維持管理費はまかなえるのか。また、浄化槽を設置する場合としない場合では、環境への負荷がどれくらい違うのか、比較資料はあるか。設置世帯の間でも点検・清掃実施の差があるが、これも徹底してほしい。

企画財政主幹 粘り強く説明していく。処理費用だけではセンターの維持管理費はまかなえないが、環境行政としてやっていく必要があると考える。比較資料はない。

住民課長 町の指導は必要と考えている。来年度全軒調査を実施したい。

12月議会の審議から

(◎は私の発言)



◎ **ふれあい牧場** 休憩施設には乳牛の写真が貼られていて牛乳も販売されている。しかし、牧場には肉牛の黒毛和牛しかいない。ふれあい牧場は観光牧場でもあるので、ジャージー種など入れ「看板に偽りあり」とならないよう対策とるべきだ。

○ **方言** 好評だった大賀郷公民館の方言の講演。今後は、島内の教師の研修や劇団「かぶつ」の活動などに対して支援するために予算措置をとるべきとの指摘があった。町もできるだけ応援していきたいと前向きな答弁。

○ **定額給付金の実態** 昨年すべての世帯を対象に実施された定額給付金。申請をしなかった方が少数いて、その額368万円。国庫に返納される。

◎ **ゴミの組成変化とクリーンセンターの工夫** 昨春から開始された紙類の分別。クリーンセンターで焼却されるゴミの量は2割以上減少し、紙類が減ったため燃えにくくなり焼却に工夫が必要とか。住民の協力があればこんなに減らせることを実感。

◎ **小・中学校のパソコンリース料** 職員と生徒あわせて2700万円。もっと安くないかとの問いに対し、町は「リースと買い取りとどちらが安い、検討してみたい」。

○ **町営住宅** 坂上一戸建ての土地の購入費が高い。費用対効果を考えるなら坂下に集合住宅をつくるべき。過疎対策というなら坂上だけでなく島全体を対象にするべき。

○ **釣り客のライフジャケット着用義務化** 釣り客やレジャー客の水難事故が目立つ。民宿・ホテルにライフジャケット着用を義務付ける条例が必要だ。

◎ **事業系ごみの検証** 事業系ゴミの手数料が4円/㎡は安すぎるとの指摘に対し「都内の32円に比べて安く、値上げも検討したいが当面は徴収の徹底をはかる」。



ぶれいくたいむ・・・コキクガシラコウモリ

町役場新庁舎建設予定地の自然環境影響調査で、コキクガシラコウモリの生息が確認され、設計変更されることに。コキクガシラコウモリは、全国に分布する在来の小型哺乳類。「キクガシラ」の名前の由来は、鼻のヒダヒダが菊の花のように見えることから。4cmと、体が小さいので「コ」がつきます。昼間は洞窟の中において夜になると飛翔する昆虫を求めて外へ出て行きます。かつては戸袋から見つかることもありました。



設計変更で1億7千万円も増額される（岩盤が出てきたことも一因）と聞いて、自然の中ならともかく人工の壕にいたものなのにと、当初私も思いましたが、今は自然との共生を尊重する都環境局の方針に納得しています。コキクガシラコウモリは庁舎近くの護神山にも生息していることが確認されています。町なかにも在来の哺乳類が暮らしていることは自慢できること。この防空壕で元気に生きていてほしいですね。

編集後記

最近目立つ若い人の活躍。今年になって、八丈出身の18歳のJリーガーが誕生しました。また、八丈高校の吹奏楽部はいくつかの大会で、毎回優秀な成績をおさめています。八高野球部も、昨年の夏の高校野球で、強豪を相手に3回戦まで勝ち進みました。景気が冷え込み、島の人口が減少し、観光が低迷するなか、こうしたニュースを聞くと元気がでますね。みんなで、若い世代の活動を応援していきましょう。

さちこのニュースレター
第二十九号 / 二〇一〇年二月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子